

# 直江津図書館・社教館問題

## 委員会審議経て、 少しずつ見えてきた?!

- ③ 市民の注目の的になっていく直江津図書館・社会教育館整備の問題ですが、その後の文教経済常任委員会審議の中で、少しずつ内容が明らかになってきました。
- ② 購入価格は4億5千万円（当初ホテル側から示された価格は9〜10億円、その後の不動産鑑定では4億6千万円）
- ① 前回一部が黒く塗られた状態が提示された要請文の全文（右に掲載）

この中で、市民の疑問のいくつかが解けました。しかし、14日の新聞報道で、「株直江津駅前ホテル」の設立が明らかになり、今後整備の手順がどうなっていくなど、新たな疑問も生じてきています。

市は市民、市議会に対しては、よりよい説明をしてほしいものです。

前回黒く塗られて隠された部分が今回はすべて明らかに

前号の直江津図書館をめぐる記事で、一部不適切な表現がありました。「個人情報」は「法人の経営情報」と訂正し、お詫びします。

## 日本共産党上越市議員団ニュース

No.137 2008年6月22日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)  
樋口 良子 544-6802 (中門前3)  
上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)  
平良木 哲也 525-9096 (上中田)

平成19年1月18日  
上越市長 木浦 正幸 殿

弊社建物の図書館等へのご活用について調査のお願い

株式会社ホテルセンチュリーイカヤ  
代表取締役社長 萩野 順次郎

拝啓 新春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社は、ご高尚のとおり、明治初期に直江津にて旅館を創業し、昭和62年からは「ホテルセンチュリーイカヤ」として、ホテル業を営んで参りました。この間、直江津地区を代表する都市ホテルとして、高品質なコンベンション施設をご提供すること等により、地域社会にささやかながらも貢献をさせていただきました。

一方、近年の急激な地域人口の減少やモーグリゼーションの進行による売上への影響は大きく、弊社も限界まで経営を合理化いたしました。さらに将来の北陸新幹線開業等、今後も弊社ホテルを取り巻く事業環境は一層厳しくなるものと予想されます。

かかる状況下、弊社は、一層の経営努力と経営強化の必要性を鑑み、現在の弊社ホテルでは、もはや当地で運営するには規模が過大であると判断し、一部建物を売却する等、数年内に弊社ホテルを当地における適正規模まで縮小することを決断いたしました。

このような中、市でまとめられた「直江津地区まちづくり戦略プラン」を拝読させていただいたところ、本プランでは直江津図書館、社会教育館の再配置が計画されておりますが、場所としては、直江津駅前が望ましい、とのご見解でした。また、上越市におかれましては、今般、当該施設の建設に当たっての事業手法について調査を始められるとのことをお聞きしております。

つきましては、駅前という立地を活かし、弊社ホテル施設を改築等により図書館等としてご活用いただく方法もあるのではないかと考え、その可能性についても是非調査対象としていただきたく、弊社として深くお願い申し上げます。また、今後具体的にご調査されることとなりました場合には全面的にご協力させていただくとともに、ご指示に従えるよう万全の体制を整える所存でございますので、是非ともご検討方よろしくお願い申し上げます。

敬具

## 党議員の一般質問は23、24日

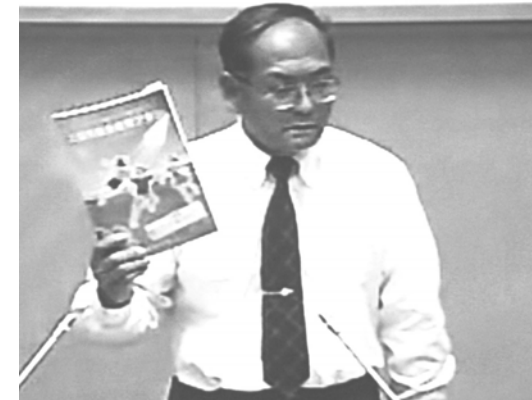
橋爪議員 (14番目 23日午前の予定)	妊婦検診、農業振興、労働行政
平良木議員 (15番目 23日の予定)	私学助成・子ども医療費助成
上野議員 (19番目 24日午前の予定)	合併後の住民サービス・まちづくり
樋口議員 (20番目 24日午前の予定)	後期高齢者医療制度、健診、放課後児童クラブ

日本共産党議員団の各議員の一般質問は、週明け23日と24日になる模様です。多くの皆さんの傍聴をお待ちしています。

一般質問の予定と項目は右の通りです。

# かたよった「学校評価」で 各校の主体性侵すな

## 橋爪議員団長が総括質疑



資料をもとにたずねる橋爪議員

## 上越市議会6月定例会始まる

12日に始まった6月定例会では、市長による提出議案の説明の後、日本共産党議員団

を代表して、橋爪法一議員団長が総括質疑に立ち、一般会計補正予算のうち、「学校評価の充実・改善のための実践研究事業」について、取り組みることになった経過と理由、実践研究予定校の選定方法などについてたずねました。

橋爪議員は「この間、県教委から出された学校評価の手引きにより、学校現場に混乱が生じている」「市でも単なる研究だけでなく、上越市版『学校評価の指針』を策定す

るとしているが、このことが各校の主体性を侵すことにならないか」とたずねました。

これに対し、小林教育長はこの間の経緯を説明したあと、「県の手引きでは、強制力というものが感じられたことは確かだが、市の指針は、『学校が楽しいですか』のような上越スタンダードといったものと、学校独自のものを組み合わせ、独自性・主体性を生かせるようにと考えている」と答弁しました。